教育実践研究　第26集（2016）　109－114

［音　楽］

「楽譜を読むこと」が苦手な生徒が意欲的に取り組めるリコーダー指導

－指番号譜の開発をとおして－

駒形加奈子*

1　はじめに

リコーダーは手軽に持ち運べ簡単に演奏できるため，音楽に慣れ親しむ楽器としてたいへん優れている。リコーダーが上手に演奏できることは音楽が好きになるかどうかを左右するかなり重要な要素である。西田（2009年）は，「先入観の薄い導入期に，楽器としての魅力を感じさせ，基礎的な奏法を身につけさせられるかが，苦手意識を持つか否かの重要な分かれ道となる」と導入期の大切さを述べている。「全日本音楽教育研究会大学部会アンケート結果」（2010年）では，教職歴１～10年程度の音楽教員は「リコーダーなど一斉活動の中で個の状況や育ちを見取ることの難しさ，個別指導で他の子どもたちの練習をコントロールすることの難しさ，子どもの実態に合った教材の不足」を実感している。本校に入学した生徒を対象にしたアンケート（図１）において「リコーダー学習が苦手」と答えた生徒が６割に達する年度もあり，小学校段階からの個人差は大きい。これは，主体的な器楽学習を行ううえで，もっとも必要とされる「学習の動機」が，中学校入学の段階で欠落している生徒が６割に達することを示す。このような状態で一斉画一的な注入授業を行うことは，今後の器楽学習に大きな影響を与えるだけでなく，音楽学習全般に対して意欲の低下を生み出す恐れがある。

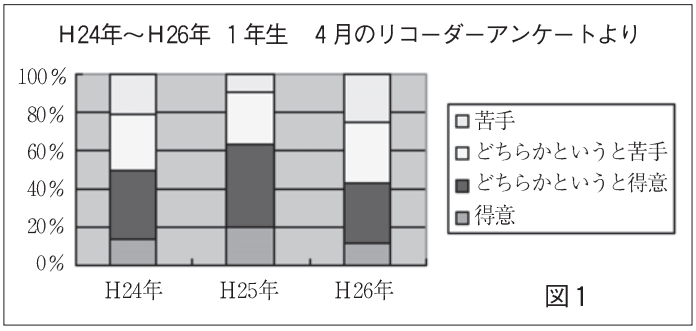


図１

歌唱も器楽も音が耳から入る時代。生徒たちは楽譜を読まなくても何となく演奏できてしまう。楽譜が目の前にあっても，実際に正しく読んでいる生徒は少なく，「楽譜を読むことは苦手」「楽譜を読むことは特別な作業」と感じている生徒は少なくない。そういった生徒は，歌唱は何とかなるかもしれないが，リコーダーでは「楽譜を読むこと」は避けて通れない。リコーダーの時間はずっと苦手意識を持ったまま過ごさなくてはならない。

音楽の授業において楽譜を読めるようになるということは，国語や英語の教科書が読めることと同じく重要である。しかし，何の疑問を抱かずに当たり前のようにやってきた楽譜を読ませる指導が，本当に必要なのであろうか。音楽科の目標である「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。」にもあるように，音楽活動の基礎的な能力は楽譜を読むことがすべてではない。また「豊かな情操」とは，「美的情操」を指し，「美的情操」とは，「音楽を聴いてこれを美しいと感じ，更に美しさを求めようとする柔らかな感性によって育てられる豊かな心」のことであると指導要領にもあるように，生徒の感性に直接響かせて，豊かな情操を養うものであってもよいのではないだろうか。トム・クルーズは識字障害（Dyslexia：ディスレクシア　書かれた文字を読む上での障害）を持っているが名優である。美空ひばりは楽譜が読めなかったが，作曲家が弾いたメロデーラインを一度で聞き取ることができる歌手であった。楽器を習っている生徒や，音楽系の部活をしている生徒だけが優れた感性を持っているわけではない。

そこで，本研究では，生徒の実態からリコーダー学習の妨げとなっている「楽譜を読む」作業を見直し「楽譜を読むこと」が苦手な生徒たちが純粋にリコーダーに親しみ，主体的に学習を展開できる方法を模索する。

＊ 魚沼市立湯之谷中学校

2　研究の目的

「楽譜を読む」そして「楽譜の情報から運指を探し出す」作業を支援することによって，リコーダーを苦手とする生徒が少しでも「吹いてみよう」という意欲を持ち活動できるようにする。そこに，誰でも簡単に運指を確認できる，独自の「指番号譜」を取り入れる。そして，生徒の状態や変容を見据えながら「指番号譜」の有効性を検証する。

3　実践の構想

リコーダーは，演奏できるようになるまでにいくつかのプロセスを要する。「楽譜を読む」「楽譜の情報から運指を探し出す」「運指どおりに指をトーンホールにセットする」「適切な息のスピードとブレスコントロールで吹く」「フレーズごとに歌うように吹く」「鍛錬し，暗譜し，自由に吹けるようになる」などである。この中の「楽譜を読む」「楽譜の情報から運指を探し出す」という２つのプロセスを支援する。

⑴　指番号譜を使う

ギターにはＴＡＢ譜（タブふ）（図２）がある。どの弦の，どの場所を押さえたらよいかを数字でわかりやすく記し，音の長さなども書かれている初心者に優しい楽譜である。音符が読めなくても，ＴＡＢ譜で簡単にギターを弾くことができる。

このような楽譜がリコーダーにもないものかと考えたのが指番号譜（図３）である。ＥＸＣＥＬで基本レイアウトを作成し，そこに指番号を貼り付けたものを使用する。

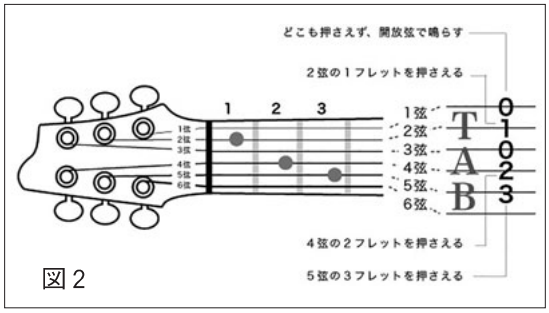


図２

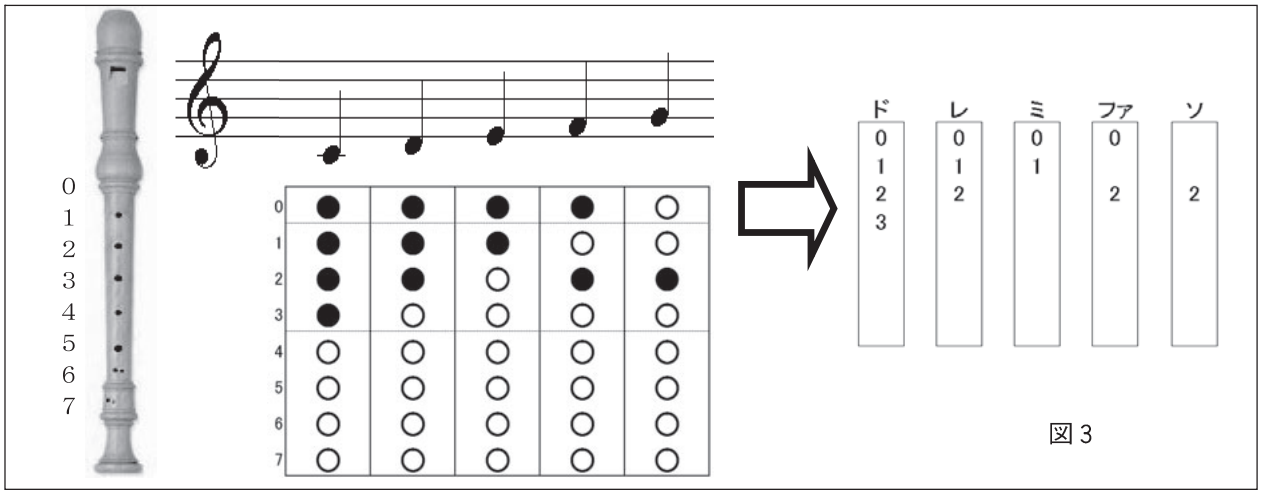


図３

⑵　曲に拘らない

生徒の身近にあり誰もが知っていて興味関心のある楽曲を用意する。まずは，「吹いてみよう」「これなら吹けそうだ」と思える曲を選ぶことにする。また，鑑賞曲の一部を扱うことで鑑賞曲の嗜好を高める一助とする。

楽曲選曲の例

１年生	２年生	３年生
湯之谷中学校校歌	フーガト短調（バッハ）	ジュピター（ホルスト）
喜びのうた	運命（ベートーヴェン）の動機	モルダウ（スメタナ）
かっこう	月光（ベートーヴェン）c-moll	花（滝廉太郎）
聖者の行進	悲愴（ベートーヴェン）２楽章	３月９日
春（ヴィヴァルディ）	残酷な天使のテーゼ	道
アニーローリー	千本桜	We　are　the　World
我は海の子	アイーダ（ヴェルディ）	
パッヘルベルのカノン（合奏）		

4　研究の実際

中学校に入って初めてのアルトリコーダーの授業は，まず，楽器を演奏して楽しむ気持ちを育てることを第一に指導する。そこで様々な曲を演奏していくうちに技能が向上していたという授業を目指すために，予想される生徒の躓きについて的確に捉え，具体的な方策を準備する。

⑴　予想される生徒の躓きと具体的方策

①　ソプラノリコーダーとの大きさの違い

生徒は，小学校まで使っていたソプラノリコーダーとの大きさの違いに戸惑うと思われる。アルトリコーダーはソプラノリコーダーと比較して楽器が大きく，指の間隔が狭い１年生にとって，全部のホールを塞ぐのは難しい。そこで，１学期には左手のみの学習，３学期に右手を伴った学習を行うことで，大きさに関わる問題を導入時に解決させる。

②　運指の違い

「ド」の運指が，ソプラノリコーダーの「ソ」の運指となることで混乱すると思われる。その混乱を防ぐために「指番号譜」を提示し，楽譜からではなく「指番号譜」通りに吹くことで曲を完成させながら，いろいろな曲を演奏できるようする。

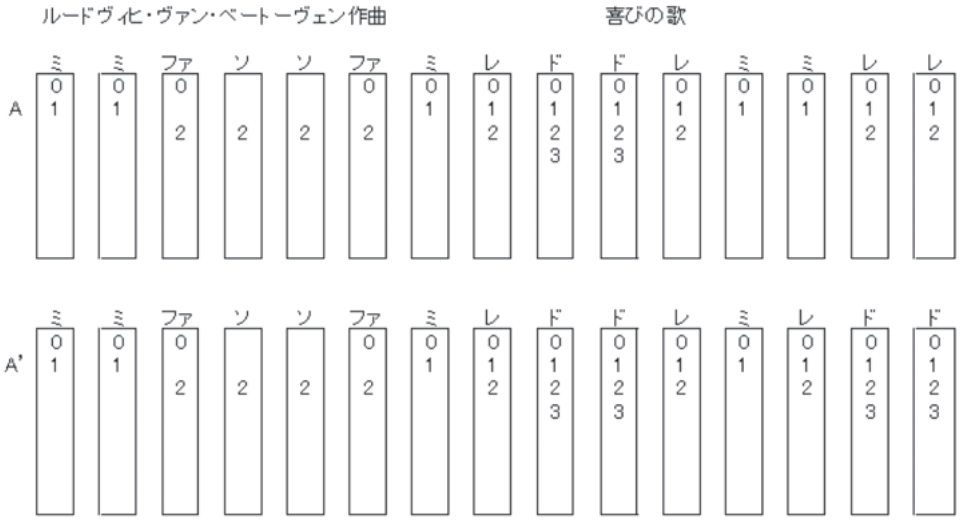
③　技術的な躓き

単なる音階練習だけではリコーダー嫌いの原因になると思われる。具体的には２小節程度の教師の範奏を，生徒がすぐに繰り返して演奏するといった英語授業のようなコール＆レスポンスの練習方法で，教師の範奏に集中させて聴く取組を行う。またパターンを変化させながら２度，３度と音域を広げて難易度を上げ，また，指の部分を隠して演奏することで，生徒の集中力を更に向上させる。

⑵　小学校の既習曲を選ぶ

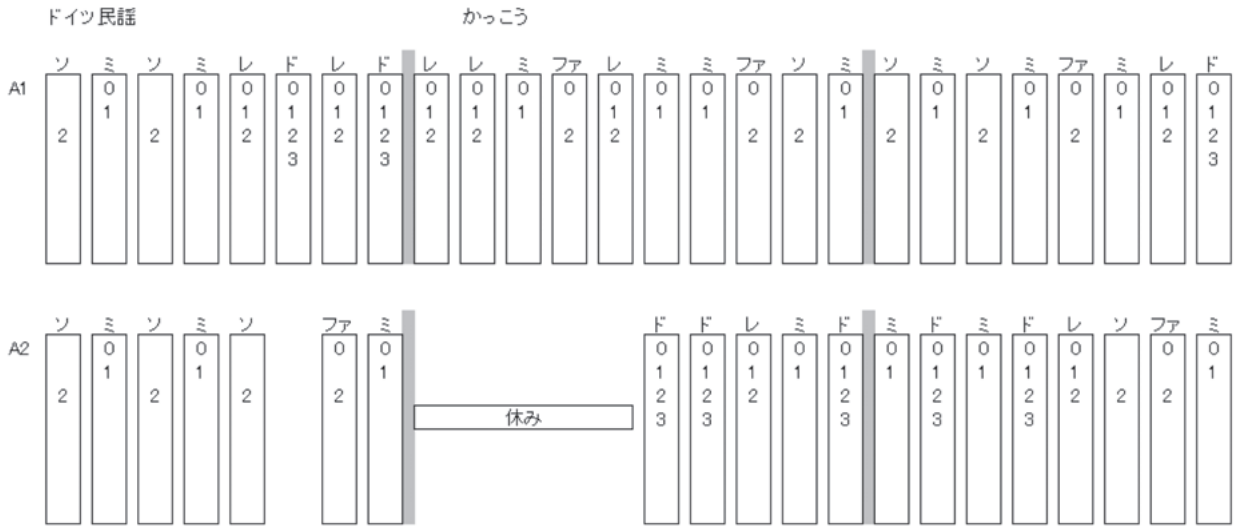
器楽の教科書で取り扱われている「喜びの歌」（楽譜１），「かっこう」（楽譜２），「聖者の行進」（楽譜３）といった小学校の既習曲を選ぶ。この３曲はよく知っているので，練習を行っていく上でリズムやメロディーの理解に時間がかからず，生徒は運指やタンギング，音色やハーモニーに対して注意深く耳を傾けることができる。後半はペア活動で互いに協力し合いながら，音楽を作りあげる楽しさにも触れさせ，互いのグループの演奏も聴き合うことで，より良い演奏を感じ取り，自らの今後の演奏の向上に繋げさせる。

（楽譜１）



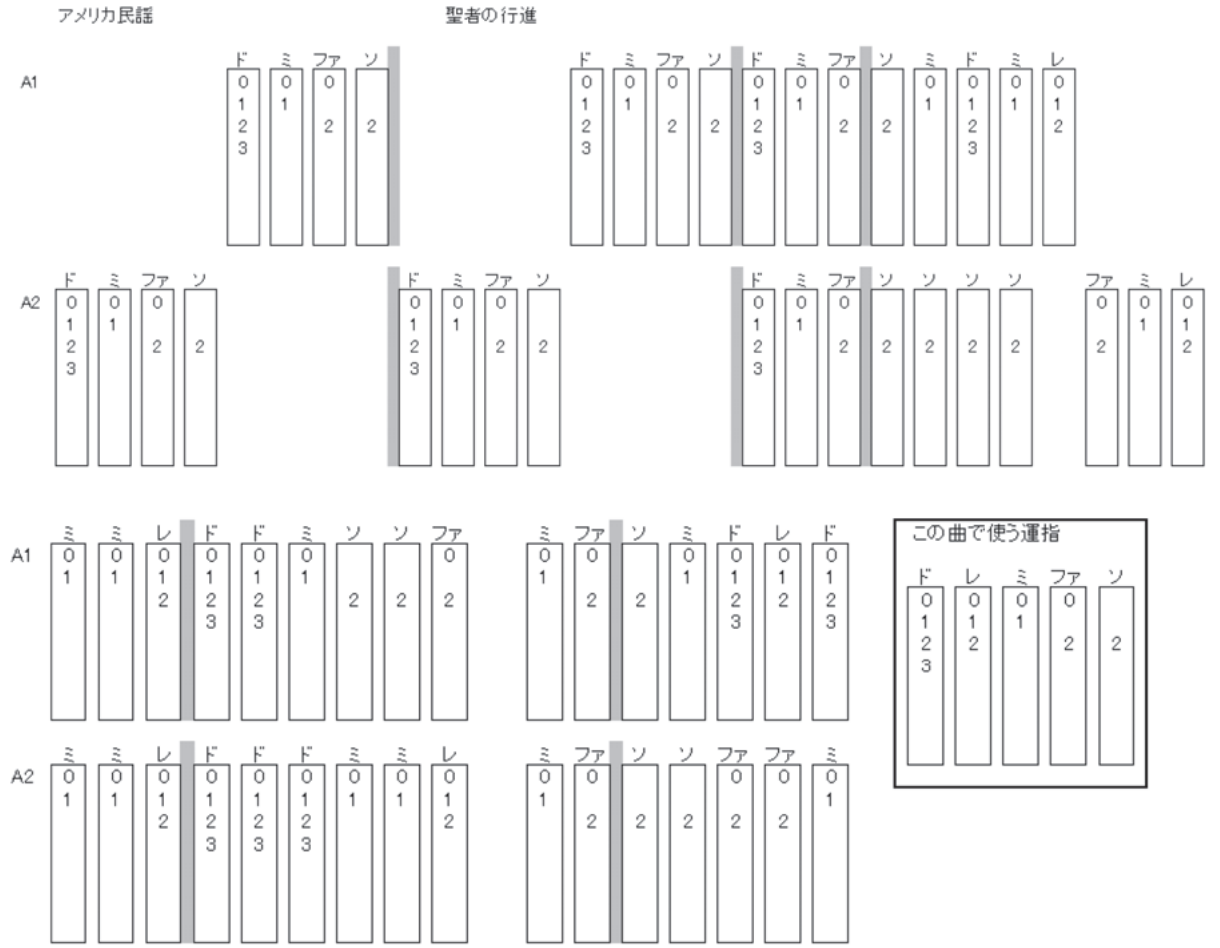
「喜びの歌」はＣ～Ｇの音のみで演奏できる易しい曲で誰もが耳にしたことのある旋律なので，抵抗なく練習できる曲である。また，音のつながりが音階のように構成されており，Ｃ～Ｇの運指が無理なく定着する曲である。ポルタート奏法とノンレガート奏法の２種類のタンギングの奏法を学習することで，リズミカルな歯切れの良い旋律や滑らかな旋律を豊かに表現させる。

（楽譜２）



「かっこう」はアルトリコーダーによる初めてのアンサンブル曲となるが，生徒にとっては既習の曲なので，無理なく導入できる。出だし２小節のタンギングに気を配り演奏することで，曲に合ったタンギングと息づかいの工夫ができ，後半は主旋律と副旋律を三度に重ねて演奏することで，リコーダーの柔らかなハーモニーを感じ取らせることができる。

（楽譜３）



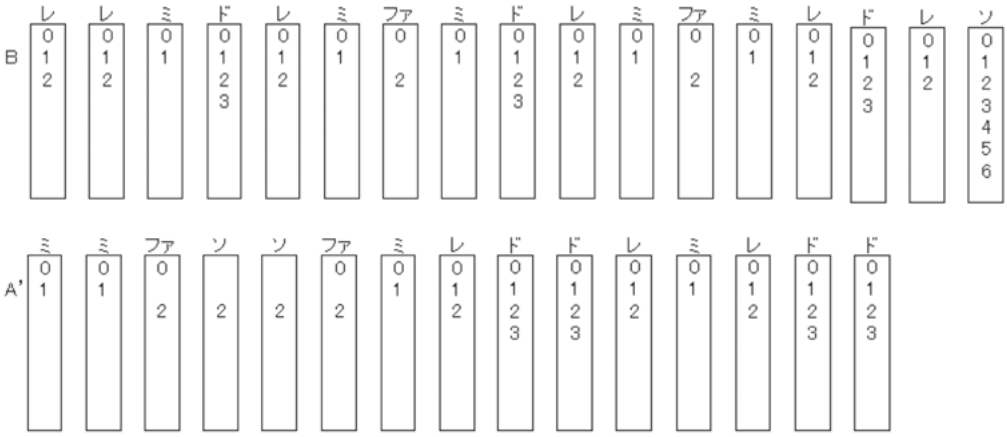
「聖者の行進」はＣ～Ｇの５音だけで演奏できるように編曲されており，前の２曲に比べて一段と表情豊かな曲である。リズミカルで歯切れもよく，豊かなリコーダーの響きを感じながら練習ができる。最初の部分は二部の掛け合いで楽しく，後半の部分は斉奏と三度のハーモニーを感じながら演奏でき，自然とアルトリコーダーに親しむことができる。

⑶ 既習曲を発展させる

「喜びの歌」（楽譜１）器楽の教科書ではＡ，Ａ’のみであるが低い（ソ）（０１２３４５６）を１カ所加え（楽譜４），Ａ，Ａ’，Ｂ，Ａ’で有名な部分を演奏させ，表現の世界を広げる。

（楽譜４）

「喜びの歌」の後半



⑷ 音域を広げ，さまざまな曲にチャレンジさせる

残酷な天使のテーゼ（佐藤英敏　作曲）　おしえて（渡辺岳夫　作曲）

千本桜（黒うさP　作曲）　湯之谷中学校校歌（高山　清　作曲）　花（滝　廉太郎　作曲）

⑸ 鑑賞教材の導入としてリコーダーを使う

１年生　　和声と創意の試み第１集「四季」より「春」　第1楽章（ヴィヴァルディ　作曲）

２年生　　フーガト短調（ヨハン・セバスチャン・バッハ　作曲）

３年生　　組曲「惑星」より　木星（Jupiter）（ホルスト　作曲）

⑹ ソプラノリコーダーを加えてアンサンブルさせる（１年生）

カノン（パッヘルベル　作曲　橋本祥路　編曲）

5　研究の考察

リコーダー学習は，運指やタンギングといった技術の習得なくしては成立しないものである。多くの実践場面では，この技術獲得のための繰り返し訓練に多くの時間を割き，特に運指に関しては，「先生（友だち）の指使いを見て吹きましょう。」などと，視覚的に運指をとらえさせ，注入的に教え込む方法がとられてきた。その結果，おおかたの生徒たちは，正確な運指を行うための機械的な作業に終始することとなり，楽曲の演奏を通して音楽を表現したり，その美しさを味わったり，響きのおもしろさを感じ取ることなく学習を終えてきた。この生徒の「音楽的自立」を支援することができないリコーダー学習が，「リコーダー離れ」の生徒と教師を生み出す一因となってきた。

「楽譜を読む」そして「楽譜の情報から運指を探し出す」作業を「指番号譜」を取り入れることによって，リコーダーを苦手とする生徒が少しでも「吹いてみよう」という意欲を持ち活動できるようにし，生徒の状態や変容を見据えながら「指番号譜」の有効性を検討してきた。

⑴ 指番号譜の長所，短所

① 教師にとっての長所

・楽譜を配布したときの生徒の反応が楽しみになる。

・素早く練習に取り組ませることができる。

・楽譜での練習の時は指使いを聞かれるたびに期間巡視していたことが，全く必要なくなったこと。

・ハイトーンなど，難易度の高い指使いも容易に指導できる。

・楽譜を読むことから解放された分，アーティキュレーション，息のスピード，旋律の歌い方など本来指導したい内容にすぐに移行できること。

② 生徒にとっての長所

・すぐに練習に取り組める。

・難しい指番号調べが必要ない。

・流行曲が吹ける。

・演奏の指向性が上がり，授業前からリコーダーを出して吹く生徒が多く，覚えるのが早い。

③ 教師にとっての短所

・耳から入って来る情報で覚えるしかないので必ず模範演奏が必要。

・既製の楽譜が無いので作り続けなければならない。

・伴奏譜がない曲はコードネームで適当に弾く技術が必要。

④ 生徒にとっての短所

・リズム，メロディーがわからない。

・知らない曲は覚えづらい。流行の曲でも，全員が知っているとは限らない。

・楽譜が読める生徒にはかえってリズム情報がなくて不便。

・速いリズムの曲は，音の数だけ指番号が書かれているので読みづらい。

「指番号譜」を取り入れたことによって，生徒全員がリコーダーを吹くようになり，「リコーダーが苦手」「やや苦手」と答えた生徒をあわせて47％から→24％と23ポイント減少した。また，授業開始前からリコーダーを吹く生徒が増えてきた。また，共通歌唱教材「花の町」「浜辺の歌」「早春賦」「花」等もリコーダーで演奏することにより，正しい音程，日本歌曲の美しさを感じ取ることができた。また，指導の際に，息の使い方やフレーズの抑揚など，より表現を練習する機会が増えて，合奏したときのピッチが揃うようになった。何よりも指導者が，もっとこの「指番号譜」をたくさん作って，裾野を広げ，生徒に手渡すことが楽しみになった。しかしながら，依然として「リコーダーが苦手」「やや苦手」と答えた24％の生徒の多くは，ソプラノリコーダーの指使いからアルトリコーダーへの指使いの移行に混乱し，指を形作るのを困難に感じている。また，苦手と感じている生徒は楽譜を読むことに困難を感じている生徒が多いのも事実である。

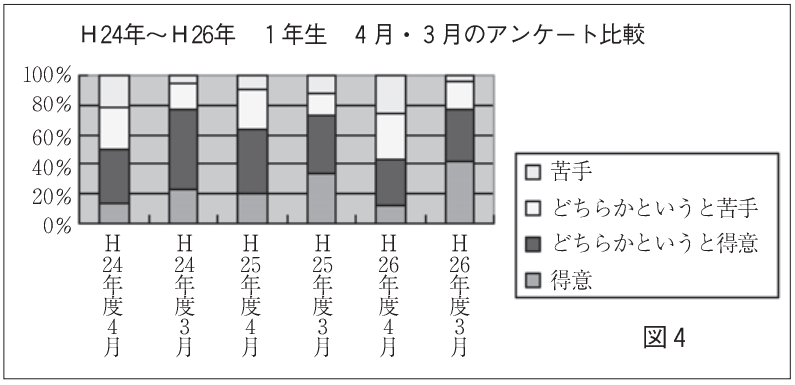


図4

今後の課題は，生徒が楽しく学べる曲，興味をもって取り組める曲を見つけ，「指番号譜」を増やしていくことである。また，楽譜を読まない指導であっても，暗記して演奏できるようになったとき，もう一度楽譜に戻って再確認する場面を作る必要がある。今吹いているこのフレーズがどういうリズムと音程でできているのかわかる事で，いかに楽譜が音楽を伝達する上で優れたツールであるか，知ることとなるであろう。

私たち音楽教育に携わるものすべては，生徒が生涯にわたって主体的に音楽とかかわり，多様な音楽活動を通して「生きる力」を育んでいくことを願う。音楽学習の重要な一領域である器楽学習，そしてその導入教具となるリコーダーが，学校教育が終わった後，埃を被って家の片隅に投げ捨てられてしまう，というようなことはさけさせたいと思うのである。

【引用・参考文献】

西田治 「苦手意識を抱かせない器楽導入指導の在り方」長崎大学教育実践総合センター紀要８　2009　pp.133-146.

文部科学省 「中学校学習指導要領」2008

文部科学省 「中学校学習指導要領解説音楽編」2008　pp.7-9.

山﨑正彦　佐野 靖 「全日本音楽教育研究会大学部会アンケート結果」2010